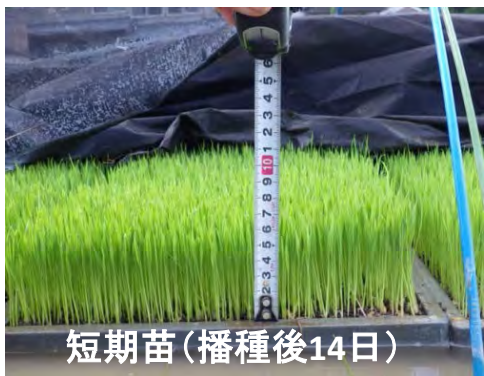


佐賀県C市

基本情報

- ・ 気候 温暖
- ・ 土質 埴壌土
- ・ 従事人数 3人(経営主含む)

品目	作付面積
主食用米(移植)	7.5ha
麦類	11ha
大豆	3.5ha



短期苗(播種後14日)

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- ・ 経営改善のため、普及センターの実証試験等に積極的に取り組み、新たな技術や品種を自身の経営に一早く導入
- ・ 水稻の作付品種は晩生品種が多いため、晩生品種を中心に短期育苗技術を活用することで、省力低コスト化を実現

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- ・ 育苗
育苗箱の播種量を多めに行う短期育苗技術を活用
- 技術の内容
10a当たりの使用播種量は慣行並とし、箱当たりの播種量を密播(湿籾約280g)。
(現在、本技術は水稻の経営面積の約半分で実施)
- 技術の効果
 - ① 水稻で使用する育苗箱数や、育苗及び育苗箱の運搬に要する労力の削減、(箱数は慣行の約7割)
 - ② 田植え時に使用する箱施薬剤等の資材の削減
 - ③ 田植えの掻き取り量の削減による苗補給回数の減少。
 - ④ 若苗移植による活着促進。

導入効果

- ・ 育苗(資材費のみ)
資材費 ▲約2割
(慣行苗:5,250円/10a(100)
短期苗:4,325円/10a(82))
- ・ 労働時間▲約3割
(慣行苗に比べて10a当たり
67分省力。)

支援体制

- ・ 平成23年に普及センターが実施した短期育苗技術実証圃の担当農家として取り組んだことを契機に、次年度より農家自身の経営で導入

課題・今後の目標

- ・ 種籾の播種量を通常よりも多くすることから、育苗管理や移植の際の田植え機の設定に留意が必要